

トルコギキョウ冬季出荷作型の好適品種選定			
[要約] トルコギキョウの冬季出荷作型において、採花日が早く、切花長が長く、採花率が高い品種は、「ファンシーホワイト」、「ロベラピンク」、「ロベラホワイト」、「レイナホワイト」、「F1 ラムレーズン」である。			
農業総合センター園芸研究所	平成25年度	成果区分	技術情報

### 1. 背景・ねらい

冬季はトルコギキョウの出荷量が少なく、高単価で取引されている。茨城県は冬季の日射量に恵まれ、冬季出荷生産が可能である。近年、冬季低コスト計画生産マニュアルが示されたが、当地域の栽培における品種の適性は不明であった。そこで、この作型・栽培方法に適した品種を選定する。

### 2. 成果の内容・特徴

1) 白熱電球による電照（日長 20 時間の長日処理）により栽培期間が 19 日から 48 日短縮されるが、品種により大きな差が見られる。電照により栽培期間が短縮され、生産コストを削減することができる。

2) ブラスチングの発生数は、多くの品種では 1 個体あたり 0.6 個未満であるが、「ロマンズグリーンネオ」など一部の品種では 1 個体あたり 4 個程度と多くなる。白熱電球での長日処理によりブラスチングの発生を減少させることが可能である。

3) 9 月 10 日に定植をして長日処理条件下で栽培し、平均の採花日が 1 月 31 日以前、切花長が 65cm 以上、採花率が 80% 以上となる品種は、「ファンシーホワイト」、「ロベラピンク」、「ロベラホワイト」、「レイナホワイト」、「ラムレーズン」である。自然日長で同様の条件を満足する品種は「ロベラホワイト」である。

### 3. 成果の活用面・留意点

1) 基本的な栽培方法は「トルコギキョウの低コスト冬季計画生産の考え方と基本マニュアル」（農研機構花き研究所 2010 年発行）に従う（本葉 3.5 対程度の大苗を定植、昼間 30℃・夜間 10℃の高昼温・低夜温管理を行い、施肥は、元肥窒素成分 0.5kg/a と生育初期に追肥窒素成分 0.5kg/a を与える）。

2) 電照は、白熱電球により 20 時間の日長延長を実施する。3.3m<sup>2</sup>あたりに 75W の白熱電球を 1 個設置し、午前 2 時から日の出まで及び日の入りから午後 10 時まで点灯させる。

#### 4. 具体的データ

表1 採花調査の結果

品種名	日長 <sup>1)</sup>	採花率	採花日 <sup>2)</sup>	切花長 (cm)	切花重 (g)	茎径 <sup>4)</sup> (mm)	花蕾数 <sup>5)</sup>	節数	BL <sup>6)</sup>
ファンシーホワイト	ND	73%	3月6日	68.7	129.2	7.0	4.8	12.2	0.1
	LD	88%	1月23日	67.2	73.6	5.4	5.0	9.0	0.4
ロベラピンク	ND	100%	2月15日	79.6	104.4	6.4	5.0	12.1	0.5
	LD	88%	1月24日	76.7	84.2	5.8	6.4	11.0	0.0
ロベラホワイト	ND	95%	1月27日	74.5	77.1	5.2	5.5	10.1	0.2
	LD	96%	1月10日	69.7	53.5	4.3	5.3	9.0	0.0
レイナホワイト	ND	75%	2月25日	79.3	138.1	7.0	7.4	11.9	0.4
	LD	83%	1月29日	74.3	98.5	5.7	6.7	10.1	0.1
F1ラムレーズン	ND	83%	2月20日	72.1	95.5	6.4	5.2	11.0	0.1
	LD	88%	1月26日	70.6	70.7	5.3	5.1	9.4	0.0
ボレロホワイト	ND	74%	1月27日	67.3	73.4	6.1	5.4	11.5	0.1
	LD	75%	1月2日	63.9	60.9	5.4	6.5	10.4	0.0
ボレロマリン	ND	67%	3月17日	83.6	137.1	6.9	5.3	13.6	0.6
	LD	83%	2月3日	75.0	71.1	5.4	5.0	10.9	0.2
ロマンスグリーンネオ	ND	83%	3月19日	80.8	170.2	7.2	6.2	12.5	4.1
	LD	63%	2月3日	62.7	74.1	5.5	4.3	10.5	0.3
ストロベリーパフェ	ND	75%	3月11日	77.5	123.9	6.2	5.1	12.8	0.3
	LD	63%	2月9日	71.4	79.5	5.3	4.9	10.8	0.2
シルビア	ND	75%	3月7日	54.1	106.6	7.4	5.1	11.5	1.4
	LD	71%	1月26日	48.6	57.7	5.6	3.6	8.9	0.4
マナ	ND	92%	2月19日	60.4	79.8	6.2	5.5	11.5	0.6
	LD	88%	1月28日	57.9	66.5	5.9	5.9	11.0	0.0
ボヤージュ(I型)グリーン	ND	92%	2月15日	70.6	91.8	5.7	5.4	10.7	0.0
	LD	75%	1月16日	69.6	81.5	5.4	5.4	10.2	0.0
F1ホイップグリーン	ND	100%	2月22日	69.5	101.7	5.7	7.3	12.5	0.2
	LD	88%	1月31日	63.5	77.1	5.2	6.3	10.6	0.0
F1ダブルティラミス	ND	75%	3月10日	55.9	94.2	5.9	5.7	10.4	0.6
	LD	88%	1月26日	55.5	71.2	5.2	5.0	8.7	0.0
メルシーイエロー	ND	92%	3月7日	73.0	96.6	5.4	6.4	12.0	0.0
	LD	75%	2月11日	66.5	74.4	4.8	6.1	10.1	0.0
エスプリグリーン	ND	75%	3月23日	65.8	106.1	6.6	5.4	12.3	0.9
	LD	63%	2月4日	62.4	76.4	5.5	4.2	10.4	0.0
エリオホワイト	ND	75%	3月8日	67.0	126.8	6.3	8.9	12.6	0.1
	LD	88%	2月9日	62.9	96.0	5.8	6.8	11.1	0.0
エリオラベンダー	ND	75%	3月8日	67.6	133.9	7.2	8.1	10.9	0.6
	LD	75%	2月16日	63.6	91.3	6.0	6.8	9.7	0.6

背景が着色されている品種は、良好な形質を有する品種である。

試験に供試した40品種のうち、市販されている品種で採花率が60%以上となったものを示した。

注1) NDは自然日長、LDは20時間日長 注2) 主茎頂花以外の花が2輪開花した日 注3) 地面から主茎頂花の基部までの長さ 注4) 本葉第4対と第5対の節間の直径 注5) 開花数と有効蕾(萼より長い花弁を持つ蕾)数の合計 注6) 1個体あたりのブラスチングした蕾の数

#### 5. 試験課題名・試験期間・担当研究室

新たな光源を利用した花き及び野菜の高品質・安定生産技術の確立・平成 23～平成 25 年度・花き研究室